

公益財団法人 核物質管理センター
第24回理事会議事録

1. 開催日時 令和2年2月28日(金)
11時00分～13時00分
2. 開催場所 東京都千代田区霞が関3-2-5 霞が関ビル35階
東海大学校友会館「朝日の間」
3. 出席者(順不同)
理事 代表理事 理事長：下村和生
業務執行理事 牛田克己、菊地昌廣
外部理事 内山洋司、海老原充、
木下雅仁
【理事現在数6名、出席理事6名】

監事 外部監事 高本学
【監事現在数1名、出席監事1名】

事務局 総務部長：水原泰 他
4. 議長 理事長：下村和生
5. 議題
議案
第1号議案：令和2年度事業計画書及び収支予算書等の承認
第2号議案：令和2年度役員報酬等の決定の決議

報告事項
1：理事の職務執行状況の報告
6. 議事の経過及び結果
審議に先立ち、事務局から、理事現在数6名に対し本理事会は6名全員の出席があり、定款第36条に規定する決議に必要な理事の出席要件を満たすことについて報告があった。また、監事の出席について併せて報告された。

次に、定款第35条の規定に基づき、下村理事長が議長となり本理事会の開会を宣言した。

また、定款第38条第2項の規定に基づき、出席した理事長及び監事が本日の議事録署名人となることを確認し、議案の審議に入った。

審議経過は以下のとおり。

6.1 議案

第1号議案 令和2年度事業計画書及び収支予算書等の承認

下村理事長及び事務局から資料1に基づき、令和2年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込み(案)について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致をもって原案のとおり承認された。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・調査研究はある程度の時間を要するものと思うが、何を目標にどういうロードマップで行うのか、費用対効果を考えて行うべきとの意見があった。
- ・分析精度の向上について、目指す精度はどうかとの質問があり、目安としてはIAEAのITV2020のレベルを維持することであり、その策定にあたり、IAEAに対して協力している旨、菊地理事から回答があった。
- ・分析機器の質、技術、精度は日進月歩で進んでいくが、それを使用するのは人であり、その教育が大切である旨の意見があった。
- ・AIなどの最新技術の導入により保障措置検査の合理化を図ることについて質問があり、国、IAEAの検討状況にもよるが、IAEAの会合の場では議論となっている旨、菊地理事から回答があった。また、新検査制度の導入趣旨も本来は効率化であることが補足された。

第2号議案 令和2年度役員報酬等の決定の決議

事務局から資料2に基づき、令和2年度の役員報酬について説明があり、審議の結果、出席理事全員一致をもって原案のとおり決議された。

6.2 報告事項

(1) 理事の職務執行状況の報告

理事長、牛田理事及び菊地理事から資料3に基づき、定款第25条第6項に定める「代表理事及び業務執行理事の職務執行状況の報告」である令和元年6月から令和2年1月までの業務執行状況について

理事長、牛田理事及び菊地理事から資料に沿って説明があった。

主な質疑等は以下のとおり。

毎年 IAEA の厳しい査察を受けなければならないのか、査察結果が良ければそれが反映されて合理化されてもよいのではないか、との意見があり、理事長及び菊地理事から、我が国への査察の合理化は国際情勢の中で、中々困難なところではないかとの説明があった。

6.3 その他

次期（令和2年6月の定時評議員会終結後から2年間）の理事就任に係る意向確認結果について、理事長から報告があった。

7. 配付資料

- 資料1 令和2年度事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込み（案）
- 資料2 令和2年度役員報酬等について（案）
- 資料3 業務報告

以上、理事会の議事の経過及び結果を明確にするために、議事録を作成し、出席した理事長及び監事が次のとおり記名押印する。

令和2年2月28日

理 事 長 下 村 和 彦

監 事 高 本 学

（議事録作成者：公益財団法人 核物質管理センター
総務部総務課長 津田 義裕）